

大洗さま



大洗磯前神社社報
第55号
令和6年6月発行

表紙題字
大久保 景明氏

昨年8月11日、12日に開催された「うみまち照らす」によりライトアップされた拜殿

御杣山と遷宮諸祭にみる

「神」と「木」と「人」との関わり

國學院大學教授 藤本頼生

はじめに

去る四月一〇日、新聞各紙の朝刊に第六三回神宮式年遷宮の齋行準備について天皇陛下から御聴許があった旨が報じられた。前日に神宮司庁で行われた記者会見では、一月二二日に天皇陛下から「ご遷宮の準備が滞りなく進むことを願う」とのお言葉を久邇朝尊神宮大宮司に賜り、四月八日には皇居に参内して西村泰彦宮内庁長官を通じて正式に陛下からの御聴許を得たことが明らかにされ、これにより、令和一五年秋に齋行される予定の遷宮の儀に向け、いよいよ遷宮の諸儀式が神宮大宮司の指揮のもとで開始されてゆくこととなる。

筆者は、かつて平成二七年に齋行された大洗磯前神社の本殿遷座祭の折に『大洗さま』三七号にて旧官国幣社を中心とした式年遷座の例と造替の事例について述べたところであるが、神宮式年遷宮については式年式日の観点から若干触れたのみであった。そこで、今回は式年遷宮の序盤となる諸儀式と御造営の基盤となる御用材を供出している宮域林について紹介しながら、神宮式年遷宮の持つ、木

と人と神との関係性、文化的な意義について述べてみたい。

御杣山について

神宮式年遷宮では、その制度が確立された一三〇〇年前の第四一代の持統天皇の御代から、社殿の造替のための御用材が宮域の山より伐採されてきた。御杣山とは、式年遷宮の社殿造営に用いる材木（御用材）を調達する山のこと、神宮が伊勢の五十鈴川の川上に鎮座した後、皇大神宮奥の神路山、島路山と呼ばれる宮域の山林をはじめ、外宮裏の高倉山も含めた山林が御用材を伐り出す御杣山と定められた。当初の宮域林は、神宮の境内や神域かつ、御用材を供出する御杣山でもあるという特異な存在でもあったが、弘安八（一二八五）年以後は社殿に用いる適材の不足に伴って宮川上流の大杉山へ、文化六（一八〇九）年には木曾山へと主たる御杣山が移動、前回遷宮では主に長野県と岐阜県の木曾（上松町）、裏木曾（中津川市）の国有林が御杣山となっている。前回は御用材の大半を双方の国有林から伐採している。

現在、神宮では内宮・外宮の神域（二四二ha）と神域外の摂社や末社所管社の社域（二二六ha）の境内林をはじめ、風致林となっている面積一、一〇三haの第一宮域林、元々御杣山として御用材の備林と定められていた神路山・島路山の一部と、流域を異にする前山の一部分が第二宮域林

となっている。伊勢市の南部に位置する第二宮域林の面積は約四、四二六九ha。神域の境内林、第一・第二宮域林を併せた総面積は世田谷区の面積（五、八二〇ha）に匹敵する面積である。これら宮域林の維持管理は神宮司庁営林部が行っている。

第二宮域林の主な目的は五十鈴川の水源涵養と風致の育成であるが、もう一つの大きな目的は、御用材となる大径木の育成である。神宮では、林学者の川瀬善太郎や本多静六らの協力を得て、一〇一年前の大正一二（一九二三）年から「神宮森林経営計画」なる方針を立てて二〇〇年計画で式年遷宮の御用材を持続可能な形で調達するための檜・杉等の造林施策が現在に至るまで行われている。第二宮域林は風致の維持保護に努める特別施業地と、檜を主たる林木としつつも針葉樹と広葉樹の混交林を仕立てながら、御用材の育成を行う普通施業地、そして防火樹帯という三種の樹帯が設けられている。併せて伊勢市佐八町には佐八苗畑（苗圃・三、六ha）があり、宮域林の造林に用いるため、宮域林内の種子を採集して檜の苗木の生産および祭典に用いる種の生産が行われている。

第六二回式年遷宮においては、約一万本の檜、容積でいえば約八五〇〇m³とされる遷宮御用材の約二四％にあたる檜が第二宮域林からの間伐材であった。第六三回の式年遷宮においては、その割合がさらに数％増加する旨がすでに神宮当

局から公表されている。まさに式年遷宮を持続可能な形で齎行するための努力が二〇〇年の計画で続けられており、社会的にもSGDs（持続可能な開発社会）が叫ばれる昨今、神宮は式年遷宮の齎行において先駆的な実践活動に取り組んでいるのである。

序盤の遷宮諸儀式から

二〇年ごとに行われる神宮式年遷宮は、約六五棟の社殿等を建て替え（殿舎の造営）と、七一四種、一、五七六点の御装束神宝の新調（御装束神宝の調進）が行われて、神が新宮にお移りになる（遷御）の大きな特徴であるが、これに伴って八年間に神領民と呼ばれる一般市民が奉仕するお木曳き、お白石持行事も含む形で約三三の祭祀・行事が齎行される。その遷宮諸儀式の幕明けとなるものは、最初の祭祀となる山口祭と同日夜に齎行される木本祭である。遷宮諸儀式の序盤は、まさに御用材の伐採と搬出を通じて、木々を神として敬い崇めてきた日本人の精神文化を象徴するような祭祀行事が続くのである。

まず、山口祭は、御造営に用いる材木の御用材を採取するにあたって御杣山の山の口に坐す神を祀り、檜や杉などの用材となる樹木の伐採と搬出等、作業の安全を祈願する祭儀である。内宮は神路山、外宮は高倉山に祭場が設けられる。五丈殿にて饗膳と呼ばれる御祝の食膳を囲む

儀式とともに、物忌と呼ばれる童男童女が奉仕する刈り初めの祭儀が行われて、青い素襖姿の小工も奉仕するのも特徴である。前回は平成十七年五月二日に齎行された。

木本祭は、式年遷宮の造営に用いる御用材のなかでも重要かつ神聖な内宮外宮両宮の正殿の床下に立てる「心御柱」の御料木を伐採するにあたって、その木本に坐す神を祀る祭儀である。現在、山口祭と同日に行われている。この御料木は御杣山の移動に関係なく、常に神宮の宮域内から伐採する樹木が選抜され、祭儀もその木の本で行われる。山口祭が日中に行われるのに対して、木本祭は深夜に行われ、儀式一切は山口祭とほぼ同様の形で齎行されるものの、両宮ともどの場所でも祭祀が齎行され、どの木を伐採したかは秘事とされている。

山口・木本両祭から約一か月後には御杣始祭が齎行される。この祭は御杣山から御用材を伐り出すにあたって作業の安全を祈願するもので、新宮にて御神体を奉安する「御樋代」の用材を伐採する祭儀である。祝詞奏上がなされて小工が忌斧を振るう他、三〇〇年超の檜に三人の杣夫が忌斧を用いて三つ尾伐りと呼ばれる伝統的な技法で御祝木を伐採する。前回は平成十七年六月三日に木曾谷国有林で、同五日に裏木曾で同様に二本の檜が伐採された（裏木曾御用材伐採式）。両祭儀での伐採は、最後の一斧を入れる直前

に「大山の神、左よき、横山一本寝るぞー」と杣夫の声が空高く響いた後に檜が倒れ、その檜の切株に檜木の枝を立てるのも祭儀の特徴である。その後、御樋代木は陸路で木曾川沿いを下り、伊勢路を三泊四日かけて両宮の御用材が伊勢に入る。そして内宮は五十鈴川での川曳き、外宮は陸曳きで運び込まれる。

御樋代木の奉曳から三か月余経過すると、御樋代を納める器となる「御船代」の御用材を伐採するにあたって、その木本に坐す神を五色の幣を立てて祀り、祈願する御船代祭が両宮の神域内で齎行され、神事の齎行と同時に御杣山では御用材が伐採される。その後、社殿造営にあたって正殿の棟持柱などの重要な箇所のご用材を引き入れる御木曳初式（役木曳き）が齎行される。その後、手斧始、事始とも呼ばれ、遷宮の起工式にあたる木造始祭が齎行される。すべての社殿を清らかに造営するため、造営を守護する屋船大神を祀る祭場で作業の安全を祈り、御用材に手斧と鋸を入れ、指金と墨縄で木に墨を入れる祭儀である。

こうした遷宮の御用材にかかる諸祭は遷御の渡御の際に御神体を納める仮御樋代木伐採式まで続く。御用材の伐採にかかる祭儀は、まさに自然と神と日本人との絆、言いかえれば、神と木と人との絆を窺い知ることのできるココロとカタチの一端ともいえよう。

社頭点描

正月風景

二日夕刻
虹が架かりました



敬神婦人会
甘酒奉仕

境内整備



旧研修所があった場所に車庫兼倉庫を新築致しました。また、東参道にも砂利を敷き、駐車スペースを数台分広げましたので、参拝の際にご利用下さい。

節分祭

二月三日



本年は、コロナ禍以前の様に宝撒きと親子で豆まきを行い、境内は活気にあふれ、笑顔が印象的でした。



節分祭奉納者

(株)サンベルクス
(株)大貫運送
鯖丸 高梨和典
石福青果店
(有)山戸呉服店
(株)飯岡屋水産
大川貞夫 大川泰勇
鈴木博之 カドマ



軍艦那珂慰霊祭

二月十七日

昭和十九年二月十七日、軍艦那珂が沈没し、本年は八十年を迎えました。

今和泉・末沢元艦長の御親族様をはじめ、岩手県や長野県など、遠方よりお越しいただきました御遺族様御参列のもと慰霊祭を斎行致しました。

神磯の碑「磯月」建立

日の出で有名な場所ですが月明かりに浮かぶ鳥居の影もまた風情があります。その様子を、水戸藩二代藩主徳川光圀公が和歌『磯月』に詠みました。荒磯の 岩にくたけて ちる月を ひとつになして 帰る浪かな

一月十八日、社殿において書家柏木白光先生に揮毫いただきました。その書から文字を写し、大洗観光協会により、神磯の舞台の側に碑が建立されました。

二種類の作品をお書きいただきました



白光先生と
大洗観光協会会長

太々神楽祭

四月十四日

例年四月第二日曜日に斎行され、氏子の中から選ばれた舞姫が御神前に御神楽を奉納します。春の穏やかな陽気に包まれる中、舞姫の鳴らす鈴の音が境内に響きわたりました。敬神婦人会お茶席奉仕、氏子青年会餅つき奉仕もご好評いただき、境内は大変賑わっております。



舞姫奉仕者

上澤心結乃(小六)
清水 和(小六)
小林寧々羽(小五)
軍司 宙(小五)
大川 素佳(小五)
岡見 綾香(小四)
上澤結芽里(小二)
石井 希穂(小二)



敬神婦人会お茶席奉仕



氏子青年会餅つき奉仕

賽銭箱奉納

(株)関根工務店
関根貴雄様



(株)田口工務店
田口誠壽様

御鎮座二六〇年並東日本大震災復興事業旧社務所リニューアル工事竣功記念として、株式会社関根工務店代表取締役関根貴雄様に、令和五年春の叙勲旭日双光章受賞記念として、株式会社田口工務店代表取締役田口誠壽様に、拝殿正面の賽銭箱を御奉納賜りました。

與利幾神社灯笼奉納



奉納者

清水洋治・悦子
清水栄基・雅美
清水 徹・香織
清水裕久・佳澄

境内末社の與利幾神社参道に灯笼を四基御奉納賜りました。

伝統和紙工芸「山鹿灯笼」奉納



熊本県山鹿市山鹿商工会議所青年部の皆様にご社を模した山鹿灯笼を御奉納賜りました。

氏子総代会研修旅行

四月十九〜二十日にかけて、三重・奈良方面に研修旅行を実施しました。神宮では両宮を御垣内参拝し、内宮で御神楽を奉納致しました。大神神社・橿原神宮では正式参拝を致しました。社務ご多忙の中、宮司様をはじめ職員の皆様から温かいご対応をいただき、総代の皆様も神社のご説明を熱心に聞いておりました。



氏子青年会 設立十周年記念大会

平成二十五年の設立より十周年を迎えたことを祝し、三月三十一日、設立十周年記念大会を開催致しました。当日は、午後四時からの記念式典に先立ち落合会長以下役員にて正式参拝。その後、参集殿において行われた記念式典では、会員に加え大洗町長國井豊氏をはじめ責任役員、氏子総代、関係団体役員等、多くの御来賓に御出席いただきました。

次いで、歌手の相川七瀬さんに記念講演を賜りました。相川さんは芸能活動の傍ら國學院大學神道文化学部在籍、今春日出度く卒業され、現在は大学院へ進み勉学に励まれております。神道や日本の文化についての御賢察を、自身の体験などを交え丁寧にお話いただき、出席者一同大変感激しておりました。

式典終了後には、大洗シーサイドホテルに場所を移し、記念祝賀会を行いました。お陰をもちまして盛大裡に十周年を祝うことが出来、関係各位に感謝を申し上げます。



記念式典 落合会長挨拶



正式参拝



記念品



祝賀会

神社宮繕資金奉賛者ご芳名

自令和五年十一月八日
至令和六年五月三日

特別奉賛者

坂元 弓代
(株)群北車輛

篠原 敬二

鈴木 博之
(株)前川林業

前川 静夫

椋田 裕士
(株)梶山工業

(株)公和設備

浅野 蓮華

有邑 佳峰

飯島 拓郎

磯崎 茂史

磯崎 則理

市原 敬子

井出 俊一

稲田 努

井上 恵太

井上 憂子

岩佐 悟

岩佐 望

宇佐美貴之

内野 篤

宇留野昭浩

袁勤正

大岡 護

大澤 秀之

大永十茂子
(有)プラス企画

岡 まゆみ

岡村 裕透

小川 和美

和井 洋子

加藤 真義

香取 潤哉

香取 祐理

楮如君

神成 正彦

神成 恵子

加養智恵子

加養真知子

川村 豊子

田村 富子

木内 忠興

木内 次郎

衣笠 秀顕

羅田 茂夫

木村 靖人

木村 靖人

煌賀チコリ

齋藤よし子

佐々木昭司

佐々木辰宜

旭鉄工(株)

佐藤 圭子

清水 泰

(有)栗崎屋

莊司 泰久

(株)ビップスタイル

鈴木 光

居酒屋ひな野

鈴木 博文

高木慎太郎

高田 秋盛

(有)タカノ

高野千鶴子

高橋 和代

高橋 嘉仁

田島 幸久

千葉 裕子

陳 兪兪

土屋 由子

寺山 明宏

出羽 裕幸

中井 盛人

(株)長坂屋

長坂比呂至

中村 佳子

中村 晃一

中村 孝道

中村 正孝

中村 好恵

丹内 毅

西宮 淳

橋 正二

橋 直彦

橋工芸(株)

橋本 弘恵

長谷 博之

浜岡 盛治

半沢 春美

細矢富士子

松館 正人

松館 恵美

的場 政樹

三上 恵

宮原 恒子

宗形亜矢子

望月 嘉絵

本嶋 之博

本嶋 康江

矢崎 愛袈

谷澤 修

安田 弾

山崎 裕

吉田 恵心

論田 佳史

渡邊 清助

(株)山富防災企画

御浄財をお寄せいただきありがとうございます。衷心より御礼申し上げます。
お名前がもれている方がございましたら御一報下さい。
なお、敬称は略させていただきます。

義援金御礼

去る一月一日に発生致しました能登半島地震におきまして被災されました皆様にご心よりのお見舞いと一日も早い復興を御祈念申し上げます。

当社では一月三日から二月末日までの間、社頭にて義援金募金を行いました。

一月三日～一月二十日までに寄せいただいた義援金につきましては、当社からの義援金と合わせ左記の金額を日本赤十字社へ、一月二十一日から二月末日までの義援金は同じく当社からの義援金と合わせ左記の金額を茨城県神道青年会を通して、被災地へ寄付致しました。御協力いただき誠に有難うございました。

一、一月三日～一月二十日

金 一、二〇〇、〇〇〇円

一、一月二十一日～二月二十八日

金 七〇三、五九〇円

令和六年下半期の祭典行事

新職員挨拶

六月 三十日 夏越の大祓式
茅の輪くぐり神事

八月 二十五日 例大祭並に八朔祭

九月 二十二日 秋季皇霊祭遙拝式
秋分祭

十月 十七日 神嘗祭奉祝祭
献饌講献穀祭

十一月 三日 明治祭

十一月 十一日 秋季神事有賀祭
虫切り健康祈願祭

十二月 二十三日 新嘗祭

十二月 二十六日 暮市

三十一日 年越の大祓式
除夜祭

〈月次祭〉

毎月日・十五日 午前十時より斎行。
どなた様でも参列できます。
参列をご希望される方は社務所まで
お申し出下さい。
初穂料 一千元

出仕 今地 紀瑛
國學院大學神道文化学科卒業

この度、ご縁をいただき、四月からご奉仕をさせていただくことになりました。山口県岩国市出身です。豊かな自然に囲まれ、長い歴史を持つ御社での恵まれた環境にてご奉仕させていただきますことは、日々新しい学びばかりです。精一杯神明奉仕に励んでいきたいと思えます。宜しくお願いたします。

巫女 原田 美夢
茨城県立東海高等学校卒業

この度、ご縁をいただきご奉仕させていただけること心よりうれしく思います。皆様の信仰を支える立場として誠心誠意ご奉仕させていただきます。神社の伝統や文化を大切にし、日々精進してまいりますので、これからどうぞよろしくお願いたします。

巫女 小松 碧衣
山形県立米沢女子短期大学
国語国文学科卒業

この度は、ご縁をいただき、四月から奉仕させていただくことになりました。学生時代にも巫女のアルバイトをしていたため、その経験を活かし奉仕して参りたいと思えます。

また、新に多くのことを学びつつ、参拝する皆様が気持ちよくお参りできるよう、精一杯努めていこうと思えます。



職員人事

(新任)

大洗磯前神社出仕を命ずる
今地 紀瑛

大洗磯前神社

原田 美夢
小松 碧衣

大洗磯前神社

大洗磯前神社巫女を命ずる

令和六年六月一日 発行

発行所 大洗磯前神社社務所

茨城県東茨城郡大洗町磯浜町六八九〇
電話 (〇二九) 二六七二六三七番
ファクシミリ 二六七二七五五七番

印刷 野崎印刷紙器株式会社